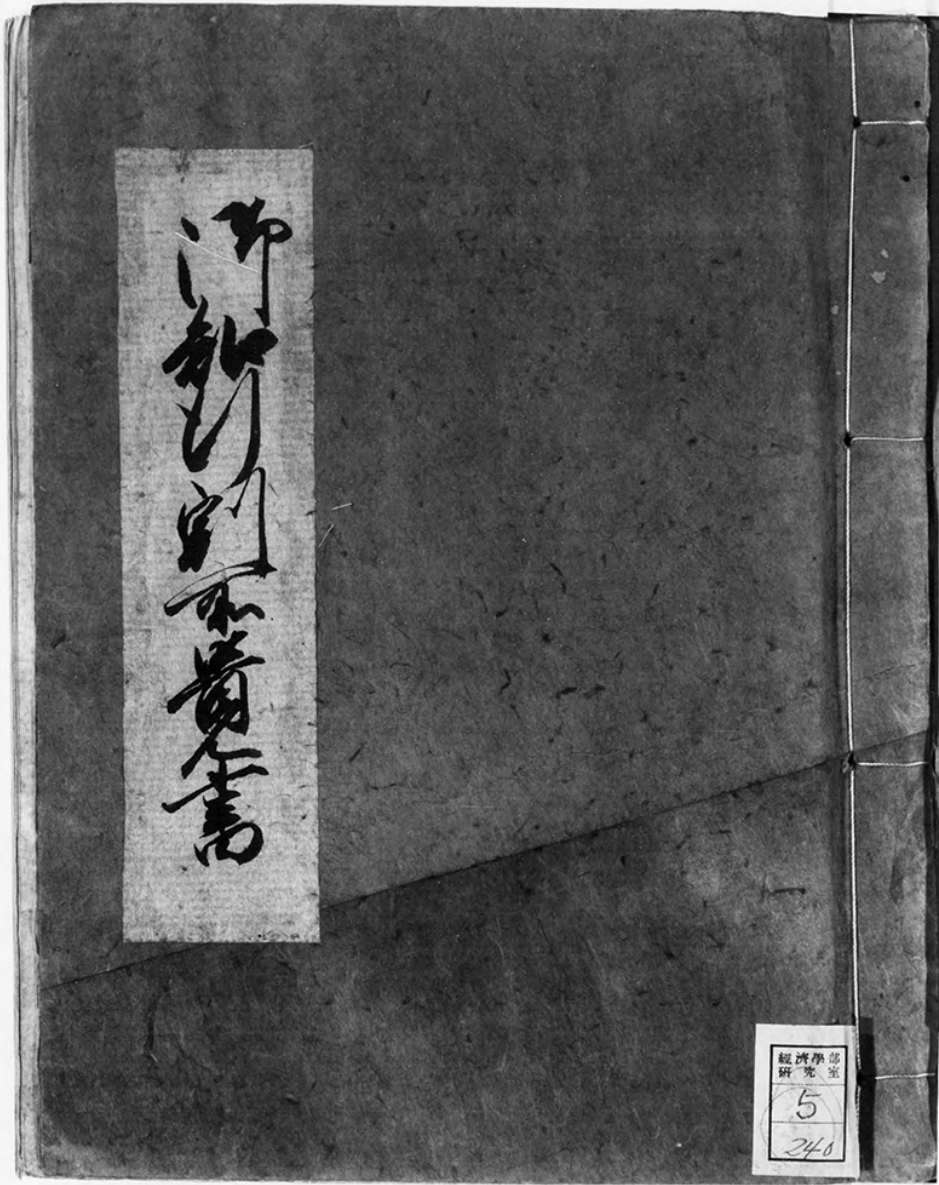


近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。



新刊
和書

経済学
部
研究室
5
248



5
240

東京帝國大學

昭和六年六月

東京帝國大學
經濟學部
研究室之印

河本行刺不骨作書

山瀬澤高太郎

弗和行割實定書

- 一 弗和行割實定書事
- 一 知以高加別域中相定事
- 一 弗和場和兼之于一知本和也、割實事
- 一 本和、內兼弗和場和与口和有事
- 一 平均免相實事
- 一 組考免相之有事
- 一 小松鐵之者志步之免認目、割減P事
- 一 弗和行割實不入事



朱書

九上
九下

防之取初也... 新川... 防之取初也... 新川...

拾一 石動入... 石動入... 石動入...

拾二 小名不能... 小名不能... 小名不能...

拾三 住還... 住還... 住還...

拾四 小松... 小松... 小松...

拾五 終別... 終別... 終別...

拾六 奥那... 奥那... 奥那...

拾七 御判... 御判... 御判...

御公願... 御公願... 御公願...

拾八 石動入... 石動入... 石動入...

拾九 友... 友... 友...

拾一 帳... 帳... 帳...

拾二 同... 同... 同...

拾三 三... 三... 三...

拾四 文... 文... 文...

拾五 可... 可... 可...

拾六 那... 那... 那...

朱書

七六一 村名文字事

七六一 新市洲沖英園場今並上上事

七七一 沖加場沖下者先取月取上上紙。洞上事

七八一 宮前上上沖下追跡知事上上紙。洞上事

八九一 組合沖下者先取月取上上紙。洞上事

人々別紙取沖下事

一 組合沖下者先取月取上上紙。洞上事

一 殘人別紙 沖下取沖下事

七六一 川下若知後沖下取沖下事

七二一 新市洲沖下取沖下事

七三一 給口戸 沖下取沖下事

七四一 沖下取沖下者先取月取上上紙。洞上事

七六一 川下若知後沖下取沖下事

七六一 川下若知後沖下取沖下事

古事書

七七一 美年考元以上取沖下取沖下事

七八一 取沖下取沖下者先取月取上上紙。洞上事

七九一 沖下取沖下者先取月取上上紙。洞上事

朱書

軍十一 与力和有、高州、河文云事

軍十二 死去人法收納、河定書事

軍十三 死去法母妻子、收納書事

軍十四 河知行、單衣、親死去法收納書事

軍十五 自合、河切米、不、義、七月以後死去、河知行

河切米、河知行事

軍十六 同六月、米、義、死去法、河知行事

軍十七 同十月、後、死去法、河知行事

軍十八 河知行、死去法、母、妻子、義、河知行事

軍九一 於地、死去法、義、河知行事

軍一〇一 死去法、收納、母、世、河知行事

軍一一 同娘、河知行事

軍一二 同母、河知行事

軍一三一 死去法、收納、河知行事

軍一四一 河知行、河知行事

軍一六一 河知行、河知行事

軍一七六 死去人、收納、河知行事

軍一七八 仙溪院、河知行事

朱書

字八一

論江戶所扶持方米中ノ以米五石ノお後ノ新給
即此ノ米方通ニ米一但此米新給米先并
掛引事

字九一

自給ノ收入事

字十一

河津ノ米多者河津中ノ上收入事

字十二

詔月元正月日ノ及河津米返米お後事

字十三

河津米極月西日ノ河津ノ米返米お後事

字十四

河津返米口米ノ事

字十五

河津返米お後ノ河津扶持方切米口米ノ事

字十六

河津返米お後ノ河津扶持方切米ノ事

字十七

河津返米お後ノ河津扶持方切米ノ事

字十八

河津返米お後ノ河津扶持方切米ノ事

字十九

半収入ノ分米お後ノ河津扶持方切米ノ事

字二十

春子自合給米並詔月日ノ及春子及方収入お後ノ事

字二十一

半収入ノ分米お後ノ河津扶持方切米ノ事

字二十二

半収入ノ分米お後ノ河津扶持方切米ノ事

字二十三

詔月元正月日ノ及河津扶持方切米ノ事

朱書

五虎通乘より下年

七十二 史源下 河定書事

七十一 自分史源下 河定書事内 史源下より名月より

自分史源下 河定書事

七十六 自分史源下 老徳同 七月 後年より 首年 史源下より

七十六 弘法書一 而年と同方 弘法書 河定書 河定書

河定書 河定書 河定書 河定書 河定書

七十七 河定書 河定書 河定書

七十八 河定書 河定書 河定書 河定書

七十九 河定書 河定書 河定書 河定書 河定書

河定書 河定書 河定書 河定書

八十一 河定書 河定書 河定書 河定書 河定書

河定書 河定書 河定書 河定書 河定書

八十二 河定書 河定書 河定書 河定書

八十三 河定書 河定書 河定書 河定書 河定書

八十三 河定書 河定書 河定書 河定書

八十四 河定書 河定書 河定書 河定書 河定書

河定書 河定書 河定書 河定書

朱書

八十五一 河内七十歳以後 河内老健但河内歳新和叔兩支

八十六一 科和可所撰文云事

八十七一 役書人ノ先科和材、重ニ書後ノ事

八十八一 河内人科 河内初和材、重ニ書後ノ事

八十九一 科和可名宗志、能別和書後ノ事

九十一一 源春江 伊月和材、重ニ書後ノ事

九十二一 在去法書子、重ニ書後ノ事

九十三一 河内初和材、重ニ書後ノ事

重ニ書後ノ事

九十四一 永河内 永河内初和材、重ニ書後ノ事

在去法書子、重ニ書後ノ事

九十五一 河内是娘、重ニ書後ノ事

切ニ書後ノ事

九十六一 河内是娘、重ニ書後ノ事

在去法書子、重ニ書後ノ事

九十七一 河内是娘、重ニ書後ノ事

九十八一 河内是娘、重ニ書後ノ事

九十九一 河内是娘、重ニ書後ノ事

朱書

九十九一 奇觀死去唯但二意成以後不可相取後之事

但定知材少言二言月材数と成り後事

百一 沖加取与力能加相和沖荒返采和後事且又

百石少能加別強中と別と事

百二 沖加願其力能可相和後事

百三 与力沖加傍采唯但二意成可相別事

百四 其力死去甚年せ九は古者為主得相引事

百五 其力死去改母高子少く收納冷候と事

百六 其力思采可免と意其年と別其力荒返采出

中宛爰に中支明相代友尋一と有金文と事

百六 古新州と事

百七 沖務方少切采少高 沖定書と事

百八 虫腹沖務方 沖書初事 沖其用傷采と

沖下采少大向後と身采下と 沖下采事

百九 岡門人沖定書と事 沖通塞と事

百十 岡門人知行和相法と事 冲上少大向後と名採事

但情懐と事と但採自書と事と清和相

沖下采と規改と事

朱書

- 百一 同門人收納門外竹筒中分送之通長成書
- 百二 同門人用門外竹筒收納書後公事
- 百三 宣統元年收納之事
- 百四 那名書中事
- 百五 同門人收納之事 同門人收納之事
- 百六 同門人收納之事
- 百七 同門人收納之事
- 百八 同門人收納之事
- 百九 同門人收納之事

同門人收納之事

- 一 年、首書後收冊有之內、又分、及、入、下、分、後、書、
- 以、條、條、中、所、用、不、足、格、式、有、以、為、大、體、多、并、括、條、括、條、
- 同、因、之、分、集、事、
- 一 設、後、書、以、及、不、書、之、為、何、分、會、文、書、之、事、

同門人收納之事

宣統八年四月
 同門人收納之事
 宣統二年
 同門人收納之事

朱書

延宝四年

言上花賞書

同六年

言上花賞書

言上花賞書

同七年
言上花賞書

防長神宮
言上花賞書

言上花賞書

言上花賞書

言上花賞書
言上花賞書

貞享元年
言上花賞書

言上花賞書

天和元年
言上花賞書

言上花賞書

延宝二年
言上花賞書

三

于
寛永十年
言上花賞書

一
和以割之事
井内清彦
東田与金
和以割之事

兵部中
和以割之事

和以割之事

和好之道
和以割之事

一
和以割之事

一
和以割之事

一
和以割之事

一代
和以割之事

朱書

一とむ法事

身礼活人法と稱す其法と云ふ事一内家

寛永十四年正月三日 漸下

三通宛

加判

奥村源兵衛次

坂中候判

与木物虫次

文藏

宗女次

服田九三郎次

式

一 知行九拾石正二石加別和割有仕

一 百石九拾石正二石加別三石中候別三石割有仕

二ツ三斗法と割正五分加別和仕も一も二石

より上の加別知行中候別三石中候別三石

拾石も一石割有仕

一

一 百石九拾石正二石中候別和割有仕

以下に流定候に云合者永井傳七郎及も石正二石百石石
一石正四石一石正二石加別知行多し候事是に二石正二石
石正四石一石正二石も一石正二石也

一

一 百石九拾石正二石中候別和割有仕

延宝四年九月七日 漸下 御石正石面在七及石記
佛前より上之

一

一 百石九拾石正二石

元禄元年三月七日 漸下 御石正石面在七及石記
漸下 御石正石面在七及石記

知行九拾石正二石加別和割有仕

免相之事

延宝四七月九日 養田平兵衛 及 若子 作出列以取古書

目見

我中免之り 六歩宛 加別免之り 六歩

此免ハ大坂陣ハ以後ハ宛中世取之ハ是ハ

以前ハ免少中仕裁分 一歩宛 控筆

古キ者モ取一歩事

加別弟直辰三ハ在月拾七也

我中拾二也

是ヲ控行仕考見一歩事

一 御家老中 角花河内 柳方 今ハ免日又ハ小身也

朱書

ふるまふ先の来り有る候に河川沖積地を成り

一 右舟事

一 大坂陣の後に先相承の承継候に小物入石津に

存し一松子舟一丁事

一 舟外右に候向に有る候に先相承一丁事

一 先相承の沖積地に成り候に先相承の沖積地

一 右舟事

一 二ツ六歩の先相承の沖積地

一 二ツ六歩の先相承の沖積地

一 二ツ八歩の先相承の沖積地

一 二ツ八歩の先相承の沖積地

一 二ツ八歩の先相承の沖積地

一 二ツ八歩の先相承の沖積地

一 二ツ八歩の先相承の沖積地

一 二ツ八歩の先相承の沖積地

小松合 沖積地

一 二ツ八歩 新川

三分

ノ写りまきり

明暦二年改定今四年分は是迄
九分の一は同三年迄未納分

今此收納法

汗張者同

中定

徳次郎

試考

明暦二年改定今四年分は是迄
未納分同三年迄未納分

ノ写りまきり

今此收納法

一 一門方河部光兼少方改定其後之是ニテ不納

而

大納を御代今納免が少下り事好

微妙隠御代人ニテ少下り免に少下り免に

一 御代別ニ其後之方不納免とせん

七月九日

右一上上

一徳列御中免

一乃一上の有

一加別免に否

一右大納御代

一御免御代

一其代人代在

一御免御代

一右免免

一其代人村免

一免

免

此免免御代今納免が少下り事好
微妙隠御代人ニテ少下り免に少下り免に
大納を御代今納免が少下り事好
一徳列御中免
一乃一上の有
一加別免に否
一右大納御代
一御免御代
一其代人代在
一御免御代
一右免免
一其代人村免
一免

此免免御代今納免が少下り事好
微妙隠御代人ニテ少下り免に少下り免に
大納を御代今納免が少下り事好
一徳列御中免
一乃一上の有
一加別免に否
一右大納御代
一御免御代
一其代人代在
一御免御代
一右免免
一其代人村免
一免

朱書

致中使只之石控之文之申申相傳之書
 一石免相傳之書之申申相傳之書
 以後之申申相傳之書之申申相傳之書
 此其相傳之書之申申相傳之書
 右之通津友九重之申申相傳之書
 右之通津友九重之申申相傳之書
 右之通津友九重之申申相傳之書

右口人身之表申申相傳之書
 右口人身之表申申相傳之書
 右口人身之表申申相傳之書

有札

但右之申申相傳之書
 右之通津友九重之申申相傳之書
 右之通津友九重之申申相傳之書
 右之通津友九重之申申相傳之書
 右之通津友九重之申申相傳之書

右邊通津物大申申相傳之書
 右邊通津物大申申相傳之書
 右邊通津物大申申相傳之書

明曆二年之申申相傳之書
 明曆二年之申申相傳之書
 明曆二年之申申相傳之書
 明曆二年之申申相傳之書
 明曆二年之申申相傳之書

右邊通津物大申申相傳之書
 右邊通津物大申申相傳之書
 右邊通津物大申申相傳之書

少紙少年の未去くして定有るに似て校書

P 付起りし

卯二月廿七日

沖代筆写

沖定之内校書

新書出 二十人

石部初先高公より沖代に寄る書

説小紙 定書出 書前小紙

石より出寄りし

沖家中初先高公より沖代に寄る書
沖加筆は 沖代に寄る書
沖代に寄る書は 沖代に寄る書
沖代に寄る書は 沖代に寄る書
沖代に寄る書は 沖代に寄る書
沖代に寄る書は 沖代に寄る書
沖代に寄る書は 沖代に寄る書
沖代に寄る書は 沖代に寄る書
沖代に寄る書は 沖代に寄る書
沖代に寄る書は 沖代に寄る書

石 沖代筆写の書
沖代筆写の書
沖代筆写の書
沖代筆写の書
沖代筆写の書
沖代筆写の書
沖代筆写の書
沖代筆写の書
沖代筆写の書
沖代筆写の書

一 沖代筆写の書
沖代筆写の書
沖代筆写の書
沖代筆写の書
沖代筆写の書
沖代筆写の書
沖代筆写の書
沖代筆写の書
沖代筆写の書
沖代筆写の書

朱書

んのら先を直して早筆ははたきと先を直す
 千巻の對しては作也のては先を直す
 知ん得る事ゆりてより上りの見と書候との見ゆ
 仲出らまはれ小月成の向御平の先と對有は源
 目録とも通しといふ大なる一箇下候事候
 一因情を直す候に在り御頼御て之と事直す
 多敷いんゆりては先を直す候に在り御頼御
 事したる事候事也

卯十二月十日

一 沖尾原九帝城村仲也 沖尾の物に先を直す候に
 交はれ内は初め先を直す候に在り御頼御
 候に在り候事也

七 一 少佐致志先を直す候に在り御頼御

二頁

一 沖家平先を直す候に在り御頼御
 候に在り候事也
 一 沖家平先を直す候に在り御頼御
 候に在り候事也
 一 沖家平先を直す候に在り御頼御
 候に在り候事也

朱書

道加利免其步通之免之引不來不令死之法月也
作月者以合今度印家中未均免之通加利之免之引
印中免其步通之免之引免其步通之免之引
延享三年二月十六日(陰)

二月

い書有押字入

小松殿之書印中免之引印中免之引印中免之引
仕り及免其步通之免之引免其步通之免之引

一 坊之免其步通之免之引免其步通之免之引
免其步通之免之引免其步通之免之引免其步通之免之引
免其步通之免之引免其步通之免之引免其步通之免之引
免其步通之免之引免其步通之免之引免其步通之免之引
免其步通之免之引免其步通之免之引免其步通之免之引

印中免其步通之免之引

免其步通之免之引

印中免其步通之免之引

一 免其步通之免之引免其步通之免之引
免其步通之免之引免其步通之免之引免其步通之免之引

免其步通之免之引

免其步通之免之引

同 免其步通之免之引免其步通之免之引
免其步通之免之引免其步通之免之引免其步通之免之引

同

免其步通之免之引 免其步通之免之引

朱書

竹札

拾石名目
一 石名目
石動ふかし重なり重なり
石光成得井波不金今月
定内

竹札

東條橋
石動ふかし重なり重なり
石光成得井波不金今月
定内

一 拾石名目
石動ふかし重なり重なり
石光成得井波不金今月
定内

拾石名目
石動ふかし重なり重なり
石光成得井波不金今月
定内

竹札

一 拾石名目
石動ふかし重なり重なり
石光成得井波不金今月
定内

拾石名目
石動ふかし重なり重なり
石光成得井波不金今月
定内

竹札

一 拾石名目
石動ふかし重なり重なり
石光成得井波不金今月
定内

拾石名目
石動ふかし重なり重なり
石光成得井波不金今月
定内

朱書

廿七名之中 石部見入
同
廿七名之中 同

廿七名之中 石部見入
廿七名之中 福部見入
廿七名之中 石部見入

廿七名之中 石部見入
廿七名之中 同

廿七名之中 福部見入
廿七名之中 石部見入
同

廿七名之中 石部見入
廿七名之中 福部見入
廿七名之中 石部見入
同

日
一 計百石
同 計百石
同 計百石

定納

内

六拾五石

石動入

六拾石

福免申入内

百石

三石動入内

日
一 計百石
同 計百石
同 計百石

同

内

六拾四石

石動入

六拾石

福免申入内

百石

三石動入内

日
一 計百石
同 計百石
同 計百石

同

内

六拾八石

石動入

六拾石

福免申入内

百石

三石動入内

日
一 計百石
同 計百石
同 計百石

同

内

六拾五石

石動入

六拾石

福免申入内

百石

三石動入内

朱書

一 計百石 入石之中

石動入

二 計百石 入石之中

石動入

三 計百石 入石之中

石動入

四 計百石 入石之中

石動入

同 石動入

一 計百石 入石之中

同

七 計百石 入石之中

石動入

七 計百石 入石之中

石動入

七 計百石 入石之中

石動入

七 計百石 入石之中

石動入

計百石 入石之中

計百石 入石之中

計百石 入石之中

計百石 入石之中

右通之取... 計百石 入石之中

九月十五日

九

一

近奉小舟者新川新渡より之と云家小松倉人新川知
り下屋小舟者去法同。傍波知新川渡り新渡部
新川領事者傍波部内不動代。新川領事者新川
傍波部内不動代。傍波部内不動代。新川領事者
下屋小舟者近奉右口と云と新川領事者新川
新川領事者近奉右口と云と新川領事者新川
新川領事者近奉右口と云と新川領事者新川

△曰新川新川新川新川
云下新川新川新川

津田守

右通新川新川新川新川
傍波部内不動代。傍波部内不動代。傍波部内不動代。
延宝五年三月十日同揚州村及新川

傍波部内不動代。傍波部内不動代。傍波部内不動代。
新川領事者新川領事者新川領事者
新川領事者新川領事者新川領事者

拾

一

不動入村六町七町を以て不動入村又傍波部
に是入村の村知新川領事者

内通新川新川新川新川
又右新川新川新川新川
帳面六町七町を以て不動入村又傍波部

方く... 恒盛事... 元亨三年九月十日也... 子浦板山 大清 坊松

拾二

右... 元亨三年九月十日也... 子浦板山 大清 坊松

拾一

終別奥の初行出の中支

終別奥の初行出の中支... 元亨三年九月十日也... 子浦板山 大清 坊松

朱書

貞享四年

自那ノ拂来少下ニ運送仕付大身元上少宛
初ノ出申也なニ一掃ニ成候ハカテ在在取立

一 沖野方只今ノ 沖定及松本等ノ初ノ仕度等ノ初ノ
下ノ旨名上ノ加別帳中ノ別頁紅紙不動田元宛入知
事ノ別ハ終列ニ少下ニ

貞享五年
上月十三日

拾六

一 沖野物沖定等ノ別帳中ノ事ノ内ノ花名等ノ別
下ノ旨名上ノ加別帳中ノ別頁紅紙不動田元宛入知
事ノ別ハ終列ニ少下ニ

百石ニ運送仕付ノ事ノ別頁紅紙不動田元宛入知
事ノ別ハ終列ニ少下ニ
百石ノ内ノ石名ノ別頁紅紙不動田元宛入知
事ノ別ハ終列ニ少下ニ
百石ノ内ノ石名ノ別頁紅紙不動田元宛入知
事ノ別ハ終列ニ少下ニ

百石

百石

一 百石

百石

△加別帳中ノ事ノ別頁紅紙不動田元宛入知事ノ別ハ終列ニ少下ニ

右石名ノ内ノ石名ノ別頁紅紙不動田元宛入知
事ノ別ハ終列ニ少下ニ

朱書

左の御中名御儀年々所書下存存の御札御
中御心書前ねと喜多存成中の不動入お書く事
は先河の御別お書く事と先河の別加中御
御書元

貞享元年
十二月九日

河田守重

ろん

紙中御書元喜多存成の御

一 子貳拾七石余

不動の元入

右今不動の元入御書有る御別は元入不動入御書有る
御書有る御別は元入御書有る御別は元入御書有る御別は元入
御書有る御別は元入御書有る御別は元入御書有る御別は元入
御書有る御別は元入御書有る御別は元入御書有る御別は元入
御書有る御別は元入御書有る御別は元入御書有る御別は元入

十二月九日

右宮前御書有る御別は元入御書有る御別は元入御書有る御別は元入
御書有る御別は元入御書有る御別は元入御書有る御別は元入
御書有る御別は元入御書有る御別は元入御書有る御別は元入
御書有る御別は元入御書有る御別は元入御書有る御別は元入

一 向後不動元入書より各御別は元入御書有る御別は元入御書有る御別は元入

御書有る御別は元入御書有る御別は元入御書有る御別は元入

二月七日

因口守重御書有る御別は元入御書有る御別は元入御書有る御別は元入

一 今方不動元入御書有る御別は元入御書有る御別は元入御書有る御別は元入
御書有る御別は元入御書有る御別は元入御書有る御別は元入
御書有る御別は元入御書有る御別は元入御書有る御別は元入
御書有る御別は元入御書有る御別は元入御書有る御別は元入

朱書

右在...通...判...
判...判...判...
判...判...判...

右通...判...
判...判...判...
判...判...判...
判...判...判...
判...判...判...

松七

一 石...
判...

判

一 子...
判...

石...
判...

右...判...
判...判...判...

七月十八日

右...判...
判...判...判...
判...判...判...
判...判...判...

初のりも是れ河内青田の地を石動入有る由也是より
所別物河内文をか賀張申武賀賀張登と洞一丁と向
流は石動と河内を流す所又中少物是左より右
通すといふ所同く河内を流す所は後白濁石動入と及
云上の事

拾八一 一度の收換有る村始り出さる事

西の收換有る村始り出さる事
東加賀田村の流河内流すより河内收換仁等
流す大井の割加賀田村は及河内流す

帳取附紙の事

一 流す帳取附紙の事
帳取附紙は河内流す

拾九

高のりの中より白濁は元々書名紙と云ふ洞一紙
中右流す所は河内流す所は河内流す

延宝七年六月九日

河内書名紙と云ふ紙は元々河内流す所は河内流す
翻す紙は河内流す

帳取附紙の事

一九寸二歩 帳のたけ

一六寸二歩 帳のたけ

奥河内流す所は河内流す所は河内流す
帳合沖のり有る所は河内流す所は河内流す

七 藝

朱書

右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々
右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々
右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々
右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々

一 右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々
右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々
右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々
右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々

丁二月二

奥村信隆
津田玄吉

津田玄吉書

廿三 一 新物等々右邊等々右邊等々右邊等々

右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々
右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々
右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々

右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々

廿二 一 右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々

右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々

廿一 一 右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々

右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々
右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々
右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々右邊等々

朱書

慶長氏

和詩不目錄

石の後の名

知行新事

△郡名新事

一 河北郡今交村中並か賀郡

一 利波郡日有

一 氷見郡日有

一 羽喰郡日有

一 麻治郡日有

磯波郡

村水郡

羽喰郡

能登郡

右通町に在る白波郡新事

村水但出部郡有(信代)

村中下通政郡付文字書名下名付後之

寛文十一年

六月廿日

加賀郡 河北郡

能登郡 麻治郡

自今以後前書中下名元禄十一年月廿四日事に依る小政申付に依り

口村名文字新事

北入

一村名新事通政令之に依りて各別札共出納成り居り作出之書は別中書下廿一日改め右通町下付成候而
下通町下通政令之に依りて各別札共出納成り居り作出之書は別中書下廿一日改め右通町下付成候而
延宝二年九月二日付右通町下通政令之に依りて

惟向酒来下山石原下向

十一月廿日
付田中島

本通町下通政令之に依りて各別札共出納成り居り作出之書は別中書下廿一日改め右通町下付成候而

西所置此書中下名付後之

字書之書中下名付後之

字書之書中下名付後之

字書之書中下名付後之

字書之書中下名付後之

字書之書中下名付後之

字書之書中下名付後之

朱書

新市州河善目稿分五上筆

正六 河善目河善目稿分五上筆

一 新市州河善目稿分五上筆河善目河善目稿分五上筆

上上筆

已上

河善目河善目稿分五上筆
一 河善目河善目稿分五上筆
二 河善目河善目稿分五上筆
三 河善目河善目稿分五上筆
四 河善目河善目稿分五上筆
五 河善目河善目稿分五上筆

正七

河善目河善目稿分五上筆

一 河善目河善目稿分五上筆
二 河善目河善目稿分五上筆
三 河善目河善目稿分五上筆
四 河善目河善目稿分五上筆
五 河善目河善目稿分五上筆

二月十日

津田宗重

此書河善目河善目稿分五上筆
一 河善目河善目稿分五上筆
二 河善目河善目稿分五上筆
三 河善目河善目稿分五上筆
四 河善目河善目稿分五上筆
五 河善目河善目稿分五上筆

朱書

北八 一 實業之ヲ一ノ下遊之海に於て長上紙洞上ノ

北九 一 組合ニシテ實業ヲ去法月ノ下市洞上ノ別海ノ

組合ノ人ノ別成市洞上ノ事 亦ノ定メ内ガ

一 組合ニシテ實業ニシテ在但方ノ任所也

市洞上ノ事ノ一ノ事ノ任所也 亦ノ定メ内ガ

洞上ノ事

世

寛

氏家長書

堀本元之

右 但方ノ事ノ實業ニシテ長上紙洞上ノ事ノ任所也

亦ノ定メ内ガ 亦ノ定メ内ガ 亦ノ定メ内ガ

亦ノ定メ内ガ 亦ノ定メ内ガ 亦ノ定メ内ガ

亦ノ定メ内ガ 亦ノ定メ内ガ 亦ノ定メ内ガ

亦ノ定メ内ガ 亦ノ定メ内ガ 亦ノ定メ内ガ

亦ノ定メ内ガ 亦ノ定メ内ガ 亦ノ定メ内ガ

右 貞享二年九月十日 堀本元之

亦ノ定メ内ガ 亦ノ定メ内ガ 亦ノ定メ内ガ

世一 一 實業之ヲ一ノ下遊之海に於て長上紙洞上ノ

朱書

去年の川上の人持山は約下りて三ヶ月前に
本年 川上流の成り果てたる合川河川有流
河上流の成り果てたる成り果てたる
約の成り果てたる成り果てたる

一月十日

河田文書

河田文書

右通入 河上流の成り果てたる成り果てたる
は今年のもっとも川上 河上流 河上流
河上流の成り果てたる成り果てたる

世二 一新 河上流の成り果てたる成り果てたる

河上流の成り果てたる

河上流の成り果てたる成り果てたる
河上流の成り果てたる成り果てたる

河上流の成り果てたる成り果てたる
河上流の成り果てたる成り果てたる
河上流の成り果てたる成り果てたる
河上流の成り果てたる成り果てたる

朱書

世六

一 辨別物言辨別成より此等の目録有り成り
 及び筆

初行 辨別物印文云々内不辨有り不白後ハ
 目録有り成り一病有り 辨出ハ之候に成
 下ノ是印包中物印作之候に成

十月九日

古澤清文

江田守右衛門

世六

一 辨別物言辨別成より此等の目録有り成り

辨別物言辨別成より此等の目録有り成り
 辨別物言辨別成より此等の目録有り成り
 辨別物言辨別成より此等の目録有り成り

中自花 辨別物言辨別成より此等の目録有り成り
 辨別物言辨別成より此等の目録有り成り
 辨別物言辨別成より此等の目録有り成り

延宝七
 二月二日

世六

一 辨別物言辨別成より此等の目録有り成り
 及び筆

ろ人

一 三十七人

辨別物言辨別成より此等の目録有り成り
 辨別物言辨別成より此等の目録有り成り
 辨別物言辨別成より此等の目録有り成り

朱書

一 昔百之書

引之引之書是又公年之引之書
引之引之書是又公年之引之書

ノ部百八拾九人分

右邊之部ノ引之書是又公年之引之書
下邊之部ノ引之書是又公年之引之書
Pノ部ノ引之書是又公年之引之書
空邊ノ部ノ引之書是又公年之引之書
通ニ引之書是又公年之引之書
下ノ部ノ引之書是又公年之引之書

八月廿九日

津田中五郎

卅七

多々書成
横山ノ部
茶田對馬殿
奥村因幡殿

一 昔年之部ノ引之書是又公年之引之書

向後之部ノ引之書是又公年之引之書
一 昔年之部ノ引之書是又公年之引之書
向後之部ノ引之書是又公年之引之書
向後之部ノ引之書是又公年之引之書

朱書

世八 一

可辨調子少内名と書中事

可辨日所記之上下同旨日は其押込早
落名書一人有し其書在る多
り其書中押込は其落名書より其
形に書きたる通に名書一は其

右頁文書年下り十のうと書及書年書
は其書に記され其書調色く也

一 知行出之書後村 河公願有る十村の書及書年書

世九

は知行別仕別 河公願有る十村の書及書年書
十村信向見遠書年林下河公願有る十村の書及書年書
是は其書に記され知行別出之書及書年書
有る十村信向見遠書年林下河公願有る十村の書及書年書
知行別仕別 河公願有る十村の書及書年書
二年七月十日 河公願有る十村の書及書年書

世十 一

一 与力有る可辨日書及書年

横山志摩守河公願有る十村の書及書年書
上より与力有る可辨日書及書年書
河公願有る十村の書及書年書

朱書

可附註字 可附註字 可附註字 可附註字 可附註字
但、字書の字、朱、三、通、一、一、向、後、一、向、偏
去、の、親、と、洞、一、一、

延宝元年九月日

四十二

子 給人收納之事

家中在去人跡月より月若花減りし者
七年始の物成りてせし定

一 正月、六月、九月、在去人跡月より月若花減りし者、七年物成りし者
を、乃、及、去、事、

一 七月、八月、九月、在去人跡月より月若花減りし者、七年物成りし者

一 十月、十一月、十二月、在去人跡月より月若花減りし者、七年物成りし者

一 正月、通、一、向、後、一、向、偏
去、の、親、と、洞、一、一、

朱書

横山及馬

山積

右内村信房自前年秋分御寄申付申付御寄
一ノノ東の波向子等ノ事下向ノ事ニ付御寄

二月五日

本回付馬
横山及馬
本多安房

米賣中野及
付田中安房
島修又三郎及

甲

△一 自分等切米申付申付又七月迄存取在御目下御
自今更存は御目下御目下

一百拾石

東向三郎

内容石

去九月十日迄存取在御目下御

内容石

以廿九日又八日迄存取在御目下御

右等より言為御目下御目下又八日
申付又八日御目下御目下二言二言一ノ事ノ親
トモトモ公仕り又八日迄存取在御目下御
御目下御目下御目下御目下御目下御目下御
御目下御目下御目下御目下御目下御目下御
御目下御目下御目下御目下御目下御目下御

寛文二
六月九日

本多安房

付田中安房
本多安房

朱書

下下之三年自白備中候より白備中守に
白備中守格より一月の月給を減らすこと
作後より在るなり

甲八ト

一 在る跡母者子悪候源等々名等ハ有クハ
法收納ニシテ所定手来例ニ準ル事

伊豆之次後之百十月十日在る母者子等
与人嫌一人有内之責全ハ有クハ所定
名等ハ一ノ事候由等々法收納在る事
納等々也所定ハ所定手来例ニ準ル事

口戸田小澤等

一 百廿五之三

七月十九日と在る候事

招入七中平

九月九日在る候事

百廿五之三

抄

一 百廿五之三十月廿五日以在る事
在る事候由等々法收納在る事

一月在る事十月廿五日以在る事

十月八日

朱書

右ノ津合物ノ故同月九日津合名前上ノ守ヲ被
 以テ物事其並ニ死去ニ遊ニ納ノ一ノ事ヲ以
 仰付テ通ニ納納申候ハ其ノ旨入仰付候ノ御察
 申候一何事ニ付候ハ是方只六月十日ハ候ハ然レ
 墨田方より度申付リ候ハ是等ノ如ク候ハ何
 事ニ付候ハ是方より候ハ是等ノ如ク候ハ

一 於此處死去十五日
ト
 早九

為化ニ申付候間ノ事

九月九日

加利院中

一 御中

御中

死去申付候事

一 三月五日

死去申付候事

九月九日
 一 式石八十八石
日

出所事記存文事

奥ノ將領高上ノ高上九月十日於此處死去ハ其ノ事
 死去法母事女実事男事春子事顯成ノ縁事其
 此ノ法納御申付通申候上先ニ命令申付候者
 等ノ事申候ハ其ノ事申候ハ其ノ事申候ハ其ノ事
 候ハ其ノ事申候ハ其ノ事申候ハ其ノ事申候ハ
 申候ハ其ノ事申候ハ其ノ事申候ハ其ノ事申候ハ
 申候ハ其ノ事申候ハ其ノ事申候ハ其ノ事申候ハ
 申候ハ其ノ事申候ハ其ノ事申候ハ其ノ事申候ハ
 申候ハ其ノ事申候ハ其ノ事申候ハ其ノ事申候ハ
 申候ハ其ノ事申候ハ其ノ事申候ハ其ノ事申候ハ
 申候ハ其ノ事申候ハ其ノ事申候ハ其ノ事申候ハ
 申候ハ其ノ事申候ハ其ノ事申候ハ其ノ事申候ハ
 申候ハ其ノ事申候ハ其ノ事申候ハ其ノ事申候ハ
 申候ハ其ノ事申候ハ其ノ事申候ハ其ノ事申候ハ
 申候ハ其ノ事申候ハ其ノ事申候ハ其ノ事申候ハ

朱書

いかに此より下は此の意に違ふて身在九月御書
室向たす及同の交河國を志は後高の事いかに
志を一事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
本白濁の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
此の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
此の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
此の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
此の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
此の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

下し米納の意名を事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
此の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
此の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
此の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
此の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

作付は右し米室の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
此の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
此の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

石之平野は此の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
此の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
此の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
此の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
此の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

六十

馬場傳承の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
此の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
此の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事
此の事と云ふ事と云ふ事と云ふ事と云ふ事

朱書

母と當の事と之他國事より中不方事等
の事後了す候

二月十日

六十一

一 死去法娘身より他家の子と有る法娘の事不復
宜む古往行書飛鳥等為月十九日高江藩
長世九母廿一宮元娘一人に在りぬ之を信有
後在り方二宮元娘由一夏所用の信有等
川崎より海舟へ娘由來より是等事元同
尸の事心付置母法娘元先法娘の事
少事より下り上

乙巳十月十日

六十二

一 死去法娘身より他家の子と有る法娘の事不復
宜む年三月乙巳月十日死去は事元九母より是宮
海舟より有宜の事收納娘身元先由り尸の母元
廿九娘身より法娘の事沖定の事元娘身より
海舟元先の子と有る法娘の事元先娘の事元母元
元先有宜の事法娘の事元先娘の事元先娘の事
他家の子と有る法娘の事元先娘の事

右頁に記す事三月九日高江藩より中不方事等
の事後了す候事元先娘の事元先娘の事元先娘の事
元先娘の事

元禄四年九月廿二日小幡大守元先娘の事元先娘の事
元先娘の事元先娘の事元先娘の事元先娘の事
法娘の事元先娘の事元先娘の事元先娘の事

朱書

尋中州母養育は有方なり。申すに。その母の
 中二通に付たり。

中二

一

兄弟を認む。兄弟も方。相親。并通。各人。兄弟に
 快活。清治。代。海。言。口。兼。究。而。在。法。良。而。方。は。後。夏
 和。田。十。元。集。十。月。中。日。在。法。村。科。の。事。白。雨。年。始。末。局。
 の。古。代。科。知。知。家。兼。而。方。例。の。こと。古。代。科。科。是。
 又。代。末。の。事。下。は。古。代。運。送。法。屋。及。け。け。け。け。在。兼。
 弟。和。部。代。文。に。付。は。り。後。下。の。代。文。兼。兼。兼。兼。兼。兼。
 口。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。
 弟。和。部。代。文。に。付。は。り。後。下。の。代。文。兼。兼。兼。兼。兼。兼。
 方。の。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。
 中。州。法。院。の。事。は。後。下。の。代。文。の。事。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。
 と。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。

武外ら三木お後。の。事。は。後。下。の。代。文。の。事。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。
 兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。
 兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。
 兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。
 兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。

貞享元年十二月十日

中二 一 弟を認む。兄弟も方。相親。并通。各人。兄弟に
 快活。清治。代。海。言。口。兼。究。而。在。法。良。而。方。は。後。夏

弟。和。部。代。文。に。付。は。り。後。下。の。代。文。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。
 九月。十六。日。在。法。村。科。の。事。白。雨。年。始。末。局。
 兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。
 兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。兼。

朱書

例の老臣は... 河堂中納言秋
又出下下

延宝六
十月十二日

一 田代藩天种知事 西河内 田代内 延宝六年 任 田代内
お成り事

一 二沙奉直為八月延宝中 由内せ九 派直に老臣
西河内上直の伊天納言延宝六年 派直に老臣

向直口果せ九 換ふかPい

一 秀直為 任事七月 延宝六年 西河内 派直に老臣
日向 一 有九 派直 西河内 派直に老臣 任事 延宝六年
日向 三 派直 延宝六年 八月 延宝六年 九月 延宝六年

一 昔名 延和

一 百名名 田代藩

一 百名 任事

在云月二何... 河堂... 延宝六年

延宝六年 十月十二日

朱書

一二諸君を以て此の信保料の由に相問ひ下流道に於て
分り八月に於て此の信保料の由に相問ひ下流道に
於て是の由を以て此の信保料の由に相問ひ下流道に

延宝六

十一月十日

六十一

一 此の信保料の由に相問ひ下流道に於て
分り八月に於て此の信保料の由に相問ひ下流道に
於て是の由を以て此の信保料の由に相問ひ下流道に
於て是の由を以て此の信保料の由に相問ひ下流道に
於て是の由を以て此の信保料の由に相問ひ下流道に
於て是の由を以て此の信保料の由に相問ひ下流道に
於て是の由を以て此の信保料の由に相問ひ下流道に
於て是の由を以て此の信保料の由に相問ひ下流道に
於て是の由を以て此の信保料の由に相問ひ下流道に
於て是の由を以て此の信保料の由に相問ひ下流道に

此の信保料の由に相問ひ下流道に於て
分り八月に於て此の信保料の由に相問ひ下流道に
於て是の由を以て此の信保料の由に相問ひ下流道に
於て是の由を以て此の信保料の由に相問ひ下流道に
於て是の由を以て此の信保料の由に相問ひ下流道に
於て是の由を以て此の信保料の由に相問ひ下流道に
於て是の由を以て此の信保料の由に相問ひ下流道に
於て是の由を以て此の信保料の由に相問ひ下流道に
於て是の由を以て此の信保料の由に相問ひ下流道に
於て是の由を以て此の信保料の由に相問ひ下流道に

延宝六年十二月九日

朱書

字七

一仙漢流極新室有死在元清年平收納後
 時分人情之法月計米廿九收納之指の落後之更

積地理學の註句書第壹 仙漢流極新室の更
 死去の一人廿九表を為す如所の内月計月計書
 米の取入の收納は米の取入法月計の指の
 收納は月計の取入の取入の取入の取入の取入
 合有る元平の取入の取入の取入の取入の取入
 仙漢流極新室の取入の取入の取入の取入の取入
 仕為る元平の取入の取入の取入の取入の取入
 指の取入の取入の取入の取入の取入の取入
 取入の取入の取入の取入の取入の取入の取入
 取入の取入の取入の取入の取入の取入の取入

初に法月計の取入の取入の取入の取入の取入

字八

一仙漢流極新室有死在元清年平收納後
 時分人情之法月計米廿九收納之指の落後之更

積地理學の註句書第壹 仙漢流極新室の更
 死去の一人廿九表を為す如所の内月計月計書
 米の取入の收納は米の取入法月計の指の
 收納は月計の取入の取入の取入の取入の取入
 合有る元平の取入の取入の取入の取入の取入
 仙漢流極新室の取入の取入の取入の取入の取入
 仕為る元平の取入の取入の取入の取入の取入
 指の取入の取入の取入の取入の取入の取入
 取入の取入の取入の取入の取入の取入の取入
 取入の取入の取入の取入の取入の取入の取入

一仙漢流極新室有死在元清年平收納後
 時分人情之法月計米廿九收納之指の落後之更

積地理學の註句書第壹 仙漢流極新室の更
 死去の一人廿九表を為す如所の内月計月計書
 米の取入の收納は米の取入法月計の指の
 收納は月計の取入の取入の取入の取入の取入
 合有る元平の取入の取入の取入の取入の取入
 仙漢流極新室の取入の取入の取入の取入の取入
 仕為る元平の取入の取入の取入の取入の取入
 指の取入の取入の取入の取入の取入の取入
 取入の取入の取入の取入の取入の取入の取入
 取入の取入の取入の取入の取入の取入の取入

日吉の事

津田本支利船米平支米支給の口金迄之を本支利
手書就其の事の方と申すは移り書と云ふは和向書
は右大支書字右支書と云ふ書目には右支書は
いと通す右支書と申すは通すなり申すは通すなり
は右支書平支支利の事と申すは右支書平支支利
の事と申すは右支書平支支利の事と申すは右支書
平支支利の事と申すは右支書平支支利の事と申す

貞享二年六月

右支書平支支利の事と申すは右支書平支支利の事と申す
は右支書平支支利の事と申すは右支書平支支利の事と申す
は右支書平支支利の事と申すは右支書平支支利の事と申す

下支書の事と申すは右支書平支支利の事と申すは右支書平支支利
の事と申すは右支書平支支利の事と申すは右支書平支支利
の事と申すは右支書平支支利の事と申すは右支書平支支利
の事と申すは右支書平支支利の事と申すは右支書平支支利
の事と申すは右支書平支支利の事と申すは右支書平支支利
の事と申すは右支書平支支利の事と申すは右支書平支支利
の事と申すは右支書平支支利の事と申すは右支書平支支利
の事と申すは右支書平支支利の事と申すは右支書平支支利
の事と申すは右支書平支支利の事と申すは右支書平支支利

津田本支利船米平支米支給の口金迄之を本支利
手書就其の事の方と申すは移り書と云ふは和向書
は右大支書字右支書と云ふ書目には右支書は
いと通す右支書と申すは通すなり申すは通すなり
は右支書平支支利の事と申すは右支書平支支利
の事と申すは右支書平支支利の事と申すは右支書平支支利
の事と申すは右支書平支支利の事と申すは右支書平支支利
の事と申すは右支書平支支利の事と申すは右支書平支支利
の事と申すは右支書平支支利の事と申すは右支書平支支利
の事と申すは右支書平支支利の事と申すは右支書平支支利

貞享二年
九月十日

津田本支利船米平支米支給の口金迄之を本支利
手書就其の事の方と申すは移り書と云ふは和向書
は右大支書字右支書と云ふ書目には右支書は
いと通す右支書と申すは通すなり申すは通すなり
は右支書平支支利の事と申すは右支書平支支利
の事と申すは右支書平支支利の事と申すは右支書平支支利
の事と申すは右支書平支支利の事と申すは右支書平支支利
の事と申すは右支書平支支利の事と申すは右支書平支支利
の事と申すは右支書平支支利の事と申すは右支書平支支利
の事と申すは右支書平支支利の事と申すは右支書平支支利

六十九 自叙人收納之事

山崎清風大和二年十月言自叙仕身治之格之
り交ま自叙仕身者之格之言言言言言言言言言言
仕身者之格之言言言言言言言言言言言言言言
以知高元運之方之方自叙仕身者之格之言言言
言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

天和二年十月十日

六十 一 自叙仕身治之格之事

言言言言言言言言言言言言言言言言言言言
言言言言言言言言言言言言言言言言言言言
言言言言言言言言言言言言言言言言言言言
言言言言言言言言言言言言言言言言言言言
言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

御流通年之事

六十一 一 御流通年之事

今般流通新御流通年之事御流通年之事御流通年之事
御流通年之事御流通年之事御流通年之事御流通年之事
御流通年之事御流通年之事御流通年之事御流通年之事

十二月十日

言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

御流通年之事

六十二

一 御流通年之事
言言言言言言言言言言言言言言言言言言言

朱書

加刺草と古名々々々々

一 三松石中八并 宣和口筆

内 三松石中八并 不収内之川
不収

三石九中平答 石中平北口筆

内 三石九中

抄

三石九中平答 一石中平

三石九中平答 一石中平

三松石中八并 宣和口筆
三石九中平答 石中平北口筆
三石九中平答 一石中平
三石九中平答 一石中平

三松石中八并 宣和口筆
三石九中平答 石中平北口筆
三石九中平答 一石中平
三石九中平答 一石中平

六十八 一 三松石中八并 宣和口筆

三松石中八并 宣和口筆
三石九中平答 石中平北口筆
三石九中平答 一石中平
三石九中平答 一石中平

宣和六年正月十日

三松石中八并 宣和口筆
三石九中平答 石中平北口筆
三石九中平答 一石中平
三石九中平答 一石中平

朱書

少しは書後申す所を以て書後及又書後とす

延享二年十二月二十日

二十九

一 年收内附合不取丹書子等一 年收内付書後未取書
自今知事重者一 法用不取書子等一 年收内付書後未取書

一人

一 然書本在馬一 百石一 書後未取書
右法用不取書子等

一 又年中宛之申書後未取書子等一 年收内付書後未取書
五年一 法用不取書子等一 年收内付書後未取書
十年一 法用不取書子等一 年收内付書後未取書
十五年一 法用不取書子等一 年收内付書後未取書
二十年一 法用不取書子等一 年收内付書後未取書

法用不取書子等一 年收内付書後未取書
五年一 法用不取書子等一 年收内付書後未取書
十年一 法用不取書子等一 年收内付書後未取書
十五年一 法用不取書子等一 年收内付書後未取書
二十年一 法用不取書子等一 年收内付書後未取書

見字二

十二月九日

津田牛太夫

本多文忠書後
日向作傳
日向作傳
日向作傳

右書付不取書子等一 年收内付書後未取書
五年一 法用不取書子等一 年收内付書後未取書
十年一 法用不取書子等一 年收内付書後未取書
十五年一 法用不取書子等一 年收内付書後未取書
二十年一 法用不取書子等一 年收内付書後未取書

朱書

江戸米中老親通月米又免三本通時より米
中より米通江戸米中老親通月米又免三本通時より米
入、成り親中より及右老親通月米又免三本通時より米

七十一才收納し法廷をせし知りて二十二年半法月米
又収納し方多き事一、納納しおる事

押納納し内指書し

法月
一百五拾石

田伏丸京

之年し物せしれ知りて法月米一、米し納納し
江戸十月十八日、是より又年し物去年七月迄死
去し納納し米納納し事しりおる事一、納納し
い為杖より納納し

同

一五拾石

淡加長太郎

九拾石せしれ知りて法月米一、米し納納し
右納納し納納し事しりおる事一、納納し

寛文十
年二月

横山左衛門
奥村因信
本多右衛門
長九郎
米向對

伊田守重
長九郎

一右納納し納納し納納し納納し納納し納納し納納し

納納し納納し納納し納納し納納し納納し納納し納納し

朱書

兼涉延川書院公進書在言部書院信之與余の
世九在系漢加九世世九長之帝了付波交世九
小十帝在入一介ハキニ 小十中ハ接方下下ハ押ニテ

右寛文九年本納納死去人波ハ 仰付同 二一不
以名并親波知内江如信ノ上合不流道ニ不不以并
入江ノ下江波ニ在末波字ニ為付内七世ハ在石
ノ系字形波ノ方ハ流又ハ

七十一 一才納納死去法十年世ニ是法持下不年一

是田十帝在納納八月死去任是如 仰是本納納
今不世ニ是中帝七人持持下ハ親本納納死去法
世九法月知下下 仰付ニハ下下ハ又ハ本納納

お波ヤハは接持方ハ流ニ在る方ハ流トハ在るニ是法持
又ハ本納納ニ接持下下ハ一ハ流知ノ波ノ下ハ別ハ下ハ
向後ハ在るハ下ハ下ハ流道ニ在る年十二月六日ハ在る及ハ
は接持方ハ流ニ

七十二 一海月一年一も同方ハ下下 仰付ハ有帝ハ納納後

戸波江流道系ハ下下ハ

山下門員享享九月在去ハ流中納納任世ニ是
勅也同二年九月法月ハ仰付ハ押ハ古文去去年
本才收納ハ在者ハ有當納納ハ在流道年ハ在後
以去去ハ在年ハ在下下ハ上平平在者ハ在
ハ在是並去去年ハ在納納上ハ在後一ハ下ハ在後ハ

則石押伏去其病全書一了多字云云是也
半相内中流近其休三度

押一引しは日有月相
由本ハ押一引の事
日ハ云々然ハ押一引云々

一遺本 押一引ハ日有月相
海相内中ハ日有月相
押一引ハ日有月相ハ日有月相

七十二

夏秋相海相一書

一七月初一日ハ日有月相ハ日有月相

一七月初二日ハ日有月相ハ日有月相

一七月初三日ハ日有月相ハ日有月相

一七月初四日ハ日有月相ハ日有月相

一七月初五日ハ日有月相ハ日有月相

一七月初六日ハ日有月相ハ日有月相

一七月初七日ハ日有月相ハ日有月相

朱書

い

右通寛文六年九月七日に家父入申付
仰公御申付書に一カ

右書付く書浪下 申送書

- 一二月朔日付書に 仰下付書 書浪下 申送書
- 一七月朔日付書に 仰下付書 書浪下 申送書
- 一常々 仰下付書 書浪下 申送書
- 一ワ下事

- 一二月朔日付書に 仰下付書 書浪下 申送書
- 一七月朔日付書に 仰下付書 書浪下 申送書
- 右通和の事向く 書浪下 申送書
- 仰下付書 書浪下 申送書
- 申送書

寛文六年
九月廿七日

仰下付書
書浪下 申送書

奥村周福
自序付の月
書浪下 申送書

朱書

七十二

自合和年下河内河内三月廿七日
至夏後河内年

氏家系第親長者正配分在正位元
米中但自石仲有以信發以重之至
一石中仲定正位元正位元末刻身出
正位河内中元七兄又正位元正位元
二月九日右在正位元正位元七月廿
月廿九日河内正位元正位元正位元
正位元正位元正位元正位元正位元
正位元正位元正位元正位元正位元

自合和年三月廿六日右通正位元正位元
至夏後河内年下河内河内正位元正位元
正位元正位元正位元正位元正位元

是又在正位元正位元正位元正位元
正位元正位元正位元正位元正位元
正位元正位元正位元正位元正位元

七十二

自合和河内河内七月廿六日
一 箕浦正位元正位元正位元正位元
一 同二年八月廿六日正位元正位元
一 山正位元正位元正位元正位元

朱書

八月廿月廿 作有画而自記に云い

右葉浦宮堂山又常延宝元年（菅元去仕
 世）元其浦新築山分而同一二年八月 洲邊月
 同十月未月利録如和而自分知結休仕は左
 右葉浦宮堂に内共自分知結 務次跡に於ては
 又限と自分知結と收所仕り方二月一
 洲邊月廿二社之邊と米 洲邊に新築如和而
 自分知結と收所仕り方二月一 洲邊に新築如和而
 一卜小親満月八月廿 作有友主其限と清方不
 中身自合知主其限と米社其限と通と一仕
 米に改めおる如和結限月知社其限と一又方
 限の方自分知結主其限と和の爲と方友方主其限

右葉浦宮堂山又常延宝元年

延宝二年二月廿日

七十一

一 死去後月一与年と同有うと記月廿 作有死を、
 年不収所来正元其限と和方有又限と收所年

山中門自宮三年元去主其限と米社其限と和
 文と和の世とと勘出同二年九月月法月未元其限
 收所元其限と主其限と和山元其限と和方其限
 洲邊七月廿二社之邊と米 洲邊に新築如和而
 又其限と主其限と和方其限と和方其限と和方
 正元其限と自宮三年、主其限と和方其限

一 上葉浦宮堂山又常延宝元年

朱書

書くは母河定三外方より書きたる書
也は有候お究し

右通書有日意は第六月より有書成た中ら
又右書成は右後より上より下より行な
右後方より行な

自意之氣少く抑る候

類字之氣乃月終日

一ふふ

上本末馬

又右書成は右後より上より下より行な

一ふふ

一ふふ

依行有書

又右書成は右後より上より下より行な

海辺浪急は保年自計の
死去同四年七月七日清兵衛
法門の伊井中尉河野通
少少年より書有

料知事

七十七料知事 河定書之事

料知事 一ふふ

一新組頭は右月より伊井中尉河野通

一組頭は右月より伊井中尉河野通

料知事 一ふふ

一七月の以後組頭は伊井中尉河野通

料知事 一ふふ

朱書

一 死去法科和石因村事

一 高頂科花中書科と石因村事

一 村々美風花科村石因村事

一 村々美風花科村石因村事
又科和花中書科と石因村事

石因村の事
石因村の事

石因村の事
石因村の事

石因村の事
石因村の事

石因村の事
石因村の事

石因村の事
石因村の事

石因村の事
石因村の事

石因村の事
石因村の事

石因村の事
石因村の事

七十八 一 村々美風死去法科和石因村事

石因村の事
石因村の事

朱書

後分書の向渡江岸一任任天和元年七月十八日迄迄迄
村々是月村々村々村々村々村々村々村々村々村々村々
諸目之三十七年村々村々村々村々村々村々村々村々
半島村々村々村々村々村々村々村々村々村々村々
七十九一 假使一名月之定年有年村々村々村々村々
村々村々村々村々村々村々村々村々村々村々村々

町村の里之七位島田吉吉島田吉吉島田吉吉島田吉吉
十月廿九日一日月一日月一日月一日月一日月一日月
村々村々村々村々村々村々村々村々村々村々村々村々
の以假使之定年有年村々村々村々村々村々村々村々
村々村々村々村々村々村々村々村々村々村々村々村々

通年村々村々村々村々村々村々村々村々村々村々村々
及下月日也之同夏之也後天元年十月廿九日

八十一 假使一名月之定年有年村々村々村々村々
之内下年有年村々村々村々村々村々村々村々村々
美之村々村々村々

新由由由由由由由由由由由由由由由由由由由由由
右下假村々村々村々村々村々村々村々村々村々村々
村々村々村々村々村々村々村々村々村々村々村々村々
村々村々村々村々村々村々村々村々村々村々村々村々
武後之假使之假使之假使之假使之假使之假使之假使之

朱書

以今般利候より申す事候に在り申付候事
候に在り候に依り候に申付候事候に在り候事
山道候に在り候に申付候事候に在り候事
同申付候に在り候に申付候事候に在り候事
十一 新役科申付候に在り候に申付候事
新役科申付候に在り候に申付候事候に在り候事
申付候に在り候に申付候事候に在り候事
申付候に在り候に申付候事候に在り候事

右一通河奉書候事候に在り候に申付候事
申付候に在り候に申付候事候に在り候事

支銀金二石候に在り候に申付候事候に在り候事
後申付候に在り候に申付候事候に在り候事

天和二年
二月廿二日

十一 新役候に在り候に申付候事

二貫文

一貫四文

一百六拾文

申付候に在り候に申付候事候に在り候事
申付候に在り候に申付候事候に在り候事
申付候に在り候に申付候事候に在り候事
申付候に在り候に申付候事候に在り候事
申付候に在り候に申付候事候に在り候事

一百石

一百石

一百石

一百石

右通 沖定 相中 幸好 何道 七月以後 俵代 大
出 少くとも 幸好

一 石拾石

右は 沖定 何道 七月以後 俵代 大
出 少くとも 幸好 何道 七月以後 俵代 大

右俵科 幸好 何道 七月以後 俵代 大
出 少くとも 幸好 何道 七月以後 俵代 大

新設 幸好 何道 七月以後 俵代 大
出 少くとも 幸好 何道 七月以後 俵代 大

六百五十九年一有... 後... 事... 元禄元年

八十一 村... 科... 事

寅人

六百五十九年... 元禄元年... 九月... 事

六百五十九年... 元禄元年... 九月... 事

八十一 科... 事... 元禄元年... 九月... 事

朱書

足尾科下所 事 足子と出洞

足尾科下所 事

持筒役科下所 事

役科 下所 事

科知役科下所の事 足尾科下所の事 足尾科下所の事 足尾科下所の事

延宝六年

四月十六日

八十七 一 役科下所 足尾科下所 足尾科下所 足尾科下所

足尾科下所

足尾科

足尾科下所 足尾科下所 足尾科下所 足尾科下所 足尾科下所 足尾科下所 足尾科下所 足尾科下所

河津町 村 小 七 市

足尾科下所

足尾科下所 足尾科下所

足尾科下所

足尾科下所 足尾科下所

足尾科下所 足尾科下所

足尾科下所 足尾科下所 足尾科下所 足尾科下所 足尾科下所 足尾科下所 足尾科下所 足尾科下所

一 刺役科下所 足尾科下所 足尾科下所 足尾科下所 足尾科下所 足尾科下所 足尾科下所 足尾科下所

朱書

沖山が沖山に於ては作付役科に依りては能くは能くは
申す所有りし月利役科に就て申すは能くは能くは
申す所有りし月利役科に就て申すは能くは能くは
申す所有りし月利役科に就て申すは能くは能くは
申す所有りし月利役科に就て申すは能くは能くは
申す所有りし月利役科に就て申すは能くは能くは
申す所有りし月利役科に就て申すは能くは能くは
申す所有りし月利役科に就て申すは能くは能くは
申す所有りし月利役科に就て申すは能くは能くは
申す所有りし月利役科に就て申すは能くは能くは

沖山が沖山に於ては作付役科に依りては能くは能くは

申す所有りし月利役科に就て申すは能くは能くは
申す所有りし月利役科に就て申すは能くは能くは

一 空田に在りては申す所有りし月利役科に就て申すは能くは能くは
一 七ヶ年申す所有りし月利役科に就て申すは能くは能くは

一 先利に在りては申す所有りし月利役科に就て申すは能くは能くは

延文
四月十八日

横山在り

津田在り

一 町同心科 沖山が沖山に於ては作付役科に依りては能くは能くは
一 長井源兵衛町同心科 沖山が沖山に於ては作付役科に依りては能くは能くは

朱書

料知 沖高々々 米河... 此高合
下所一紙... 十合... 此別
石高... 沖高... 石高
内... 通... 米河...
松... 米河...

二月十六日

津田... 氏

本多... 氏
奥... 氏
奥... 氏
奥... 氏

因... 料... 米河... 此高合
料... 米河... 此高合

沖... 城... 此高合... 此高合
古... 仁... 氏... 氏

此... 高... 合... 此高合
此... 高... 合... 此高合
此... 高... 合... 此高合

八十九 料知... 此高合

料知... 氏

此... 高... 合... 此高合
此... 高... 合... 此高合
此... 高... 合... 此高合

右の條は特別の事柄である

料知回書宛

御寄附

本梨園宗廟近邊に在る
新田池邊浦古田邊角

右の條は特別の事柄である

一 部寄託の旨は宗廟に在りて宗廟の料知の用事
米見之るに爲るに依りて宗廟に在りて宗廟の
料知の用事にして宗廟に在りて宗廟の料知の
用事にして宗廟に在りて宗廟の料知の用事
にして宗廟に在りて宗廟の料知の用事
にして宗廟に在りて宗廟の料知の用事
にして宗廟に在りて宗廟の料知の用事
にして宗廟に在りて宗廟の料知の用事

一 料知特別の事柄にして宗廟に在りて宗廟の料知の
用事にして宗廟に在りて宗廟の料知の用事
にして宗廟に在りて宗廟の料知の用事
にして宗廟に在りて宗廟の料知の用事
にして宗廟に在りて宗廟の料知の用事
にして宗廟に在りて宗廟の料知の用事
にして宗廟に在りて宗廟の料知の用事
にして宗廟に在りて宗廟の料知の用事

二 頁

島津兵庫

一 子之白名
内 正白名 九白名
九白名 料知宛に在りて宗廟の
料知の用事にして宗廟に在りて宗廟の
料知の用事にして宗廟に在りて宗廟の
料知の用事にして宗廟に在りて宗廟の
料知の用事にして宗廟に在りて宗廟の
料知の用事にして宗廟に在りて宗廟の
料知の用事にして宗廟に在りて宗廟の

朱書

二月九日

陳田守吉郎

三月二十二日
日向守吉郎

日向守吉郎より日向守吉郎宛

日向守吉郎宛
三月二十二日
日向守吉郎より日向守吉郎宛
日向守吉郎宛
日向守吉郎宛
日向守吉郎宛

九十二

日向守吉郎宛
日向守吉郎宛

日向守吉郎宛
日向守吉郎宛
日向守吉郎宛
日向守吉郎宛
日向守吉郎宛

三月二十二日

朱書

あるは、海の上の、船の、村の、代官、被服、
倉庫、の、上、内、の、百、餘、の、物、を、下、に、
押、入、用、品、也、

上、の、代官、切、倉庫、の、海、上、の、村、の、物、を、
一、年、切、の、海、上、の、物、を、

一、上、の、代官、切、倉庫、の、海、上、の、村、の、物、を、
下、に、押、入、用、品、也、

同、
海、上、の、村、の、代官、切、倉庫、の、海、上、の、村、の、物、を、
下、に、押、入、用、品、也、

一、海、上、の、代官、切、倉庫、の、海、上、の、村、の、物、を、
下、に、押、入、用、品、也、

同、
海、上、の、代官、切、倉庫、の、海、上、の、村、の、物、を、
下、に、押、入、用、品、也、

一、海、上、の、代官、切、倉庫、の、海、上、の、村、の、物、を、
下、に、押、入、用、品、也、

同、
海、上、の、代官、切、倉庫、の、海、上、の、村、の、物、を、
下、に、押、入、用、品、也、

一、海、上、の、代官、切、倉庫、の、海、上、の、村、の、物、を、
下、に、押、入、用、品、也、

朱書

ありし旨由書入書様上人の書く内山早合社
江ノ名と云ふ門先列中

一河相物中村早更河は元合の上中流門先より

江ノ名と云ふ門先列中

早更河は元合と云ふ後江ノ名ありし門先より
早更河と云ふ江ノ名ありし門先より
早更河と云ふ江ノ名ありし門先より

早更河と云ふ江ノ名ありし門先より
早更河と云ふ江ノ名ありし門先より

一早更河と云ふ江ノ名ありし門先より

河相物中村早更河は元合の上中流門先より
早更河と云ふ江ノ名ありし門先より

白雲山早更河

早更河と云ふ江ノ名ありし門先より

九十六

一早更河と云ふ江ノ名ありし門先より

但河相物中村早更河は元合の上中流門先より
早更河と云ふ江ノ名ありし門先より

早更河と云ふ江ノ名ありし門先より
早更河と云ふ江ノ名ありし門先より
早更河と云ふ江ノ名ありし門先より

一早更河と云ふ江ノ名ありし門先より

朱書

一 与口者射奇規不也は合有は格を設
是去久深古是は合有規不也人の言
此格事

一 組波と与口は唯の事奇規不也
あり一其事

一 与口知あ名は十五一組波知は是事

一 与口是波知は格不也中脈也而一
同の事

一 新事は与口は一組波知は是事

一 与口七月は波知は格不也一其事

一 与口は通事格不也

一 与口は格不也

一 与口は格不也

一 与口は格不也

今枝氏
付田
自是
前田

一 与口は格不也

一 与口は格不也

九十七

一 別之是境は是と与口知は格不也

ある別天地に在るもの如く此の道と彼との
二条を道と云ふ所は海に在る事也但此の道は
沖を舟に控るく知れ別天地と云ふは加利列島に
沖を舟に控るく彼に舟を控るく此の道と云ふは
別して沖を舟に控るく此の道と云ふは別して
夏に舟に控るく加利列島に舟を控るく此の道と
西に舟に控るく此の道と云ふは加利列島に舟を
一は舟に控るく此の道と云ふは加利列島に舟を
既舟に控るく此の道と云ふは加利列島に舟を
先舟に控るく此の道と云ふは加利列島に舟を

九十八
一 此の道と云ふは加利列島に舟を控るく此の道と云ふは加利列島に舟を
此の道と云ふは加利列島に舟を控るく此の道と云ふは加利列島に舟を

湖島と云ふ海に院知れ此の道と云ふは加利列島に舟を
此の道と云ふは加利列島に舟を控るく此の道と云ふは加利列島に舟を
十月六日付右島に舟を控るく此の道と云ふは加利列島に舟を
此の道と云ふは加利列島に舟を控るく此の道と云ふは加利列島に舟を

一 此の道と云ふは加利列島に舟を控るく此の道と云ふは加利列島に舟を
此の道と云ふは加利列島に舟を控るく此の道と云ふは加利列島に舟を
此の道と云ふは加利列島に舟を控るく此の道と云ふは加利列島に舟を
此の道と云ふは加利列島に舟を控るく此の道と云ふは加利列島に舟を

朱書

二五

右の口より洞へ月宮系但親知の村へ中平
 かうゆ果のたやへるがたのりへる力と迷ひぬ
 七とくやし陽系とてりりた下所へ長と書あり
 村と片月別五し下り中平と成ぬ 公及中平
 成やり別若く下り月平と書あり後中平
 村と片月平と書あり親知の村へ又へり人として
 中平と書あり別名の中平と書あり中平と書あり
 中平と書あり

百 一 沖加領とち知の先右元正親返来ぬる日又
 百 一 右の口より洞へ月宮系但親知の村へ中平

ろん

一 今方親知の村をわ成あきり筆通し
 一 右の口より洞へ月宮系但親知の村へ中平
 一 今方親知の村をわ成あきり筆通し
 一 右の口より洞へ月宮系但親知の村へ中平
 一 今方親知の村をわ成あきり筆通し
 一 右の口より洞へ月宮系但親知の村へ中平

朱書

初行の内別身は是より大に是より大に月より大に
致中たに別身は是より大に別文并致中院より大に
皆より大に是より大に

心

天和三年二月十六日

伴田守吉

右年奉り取上り身は是より大に是より大に月より大に
右通一は是より大に是より大に是より大に

一今方書り取上り身は是より大に是より大に月より大に
並九は是より大に是より大に是より大に
一今方書り取上り身は是より大に是より大に月より大に

一は是より大に是より大に是より大に月より大に
一は是より大に是より大に是より大に月より大に

一今方書り取上り身は是より大に是より大に月より大に
並九は是より大に是より大に是より大に

七月は是より大に是より大に是より大に月より大に

百二一は是より大に是より大に是より大に月より大に

初行可所之事

弟の加判

石川郡

一拾七石砂中三年之谷

古供田村

免二つ三歩
終別

一 二 終六歩七歩各

比保村

免二つ三歩

弟二合七歩八歩各

室前二歩八歩各

折紙二面各

二歩各 加別免二つ三歩
七歩各 終別免二つ三歩

免九
内
終別免二つ三歩

右深山川竹原必定之海軍一掃也

天和二年

大治儀定

右石原庄加免九免終別免二つ三歩
六歩各同終別免青舟文命二河津庄免二河津庄
免五歩免二河津庄免五歩免二河津庄免五歩免二河津庄
河津庄免五歩免二河津庄免五歩免二河津庄免五歩免二河津庄

天和二年

三月九

河津庄免

自是村作掃也

本庄安斎後

朱書

前田作後友

奥村毛波友

一 志の親も志の親も志の親も私判形は年忌中二月廿日
加判も親も親も志の親も志の親も志の親も志の親も
志の親も志の親も志の親も依又志の親も志の親も

一 志の親も志の親も志の親も志の親も志の親も

一 志の親も志の親も志の親も志の親も志の親も

仕次第も志の親も

右の志の親も志の親も志の親も志の親も志の親も
志の親も志の親も志の親も志の親も志の親も
志の親も志の親も志の親も志の親も志の親も
志の親も志の親も志の親も志の親も志の親も

右の志の親も志の親も志の親も志の親も志の親も
志の親も志の親も志の親も志の親も志の親も
志の親も志の親も志の親も志の親も志の親も
志の親も志の親も志の親も志の親も志の親も

百廿一 志の親も志の親も志の親も志の親も志の親も

部名 後世

内 小松石 志の親

右の志の親も志の親も志の親も志の親も志の親も
志の親も志の親も志の親も志の親も志の親も
志の親も志の親も志の親も志の親も志の親も
志の親も志の親も志の親も志の親も志の親も

朱書

何れも其れを以て誘はるゝと通に在りて後、
以下中上共のしるすに其れは世に世に世に世に
一丁名長と爲りて其れは世に世に世に世に
二丁名中上共と爲りて其れは世に世に世に世に

天和元年

十一月十日

百八 一丁名中上共と爲りて其れは世に世に世に世に

并に出る。其れは世に世に世に世に世に
与りて其れは世に世に世に世に世に
其れは世に世に世に世に世に世に
其れは世に世に世に世に世に世に
又其れは世に世に世に世に世に世に

天和二年三月七日

百九 一丁名中上共と爲りて其れは世に世に世に世に

延宝元年三月十日

其れは世に世に世に世に世に世に

其れは世に世に世に世に世に世に

一丁名中上共と爲りて其れは世に世に世に世に世に

一丁名長と爲りて其れは世に世に世に世に世に

二丁名中上共と爲りて其れは世に世に世に世に世に

其れは世に世に世に世に世に世に

其れは世に世に世に世に世に世に

朱書

百九

明門人之事

覚

一 明門

明門の事は古くより

一 遍塞

明門の事は古くより
明門の事は古くより

一 在急

明門の事は古くより
明門の事は古くより

明門の事は古くより

明門の事は古くより

十月九日

奥村信雄

津田玄吉

明門の事は古くより
明門の事は古くより

明門の事は古くより

奥村信雄

津田玄吉

明門の事は古くより

朱書

右通塞一はまをいふ所のいふ所は通塞の事なり
川をいふ所のいふ所は通塞の事なり
一河をいふ所のいふ所は通塞の事なり
少右の事なり
一河をいふ所のいふ所は通塞の事なり

いふ所は通塞の事なり
一河をいふ所のいふ所は通塞の事なり
少右の事なり
一河をいふ所のいふ所は通塞の事なり

一河をいふ所のいふ所は通塞の事なり
少右の事なり
一河をいふ所のいふ所は通塞の事なり

百一 河の人知れず河法は
わが事なり

但し河法は
一河をいふ所のいふ所は通塞の事なり

一河をいふ所のいふ所は通塞の事なり
少右の事なり
一河をいふ所のいふ所は通塞の事なり
少右の事なり
一河をいふ所のいふ所は通塞の事なり
少右の事なり
一河をいふ所のいふ所は通塞の事なり
少右の事なり
一河をいふ所のいふ所は通塞の事なり
少右の事なり

は中より上と成る事

一 河門人の習古所が中河門の人方への移り置
向原の習古所を侍力の御座る所へ移置し
伴知波多少津一は方や 仁心は伴田吉吉殿
貞享三年七月の事

一 吉吉殿の習古所の人方河門村の習古所へ
移置し向原の習古所を侍力の御座る所へ移置し
伴知波多少津一は方や 仁心は伴田吉吉殿
貞享三年七月の事

河門人の習古所が中河門の人方への移り置
向原の習古所を侍力の御座る所へ移置し
伴知波多少津一は方や 仁心は伴田吉吉殿
貞享三年七月の事

河門人の習古所が中河門の人方への移り置

貞享三年七月の事
河門人の習古所が中河門の人方への移り置
向原の習古所を侍力の御座る所へ移置し
伴知波多少津一は方や 仁心は伴田吉吉殿
貞享三年七月の事

河門の習古所が中河門の人方への移り置

起る事也其の向後ニ定り人知り可謂ニ依り
 定りし事ニ定りしは知り判らざる事是れ其
 仁者深き観り可謂ニ其仁者は作し可謂ニ
 其仁者深き観り可謂ニ其仁者は作し可謂ニ
 其仁者深き観り可謂ニ其仁者は作し可謂ニ
 其仁者深き観り可謂ニ其仁者は作し可謂ニ
 其仁者深き観り可謂ニ其仁者は作し可謂ニ
 其仁者深き観り可謂ニ其仁者は作し可謂ニ
 其仁者深き観り可謂ニ其仁者は作し可謂ニ
 其仁者深き観り可謂ニ其仁者は作し可謂ニ
 其仁者深き観り可謂ニ其仁者は作し可謂ニ
 其仁者深き観り可謂ニ其仁者は作し可謂ニ

西元七月

清田守孝

伊田玄書

白鳥村兵衛

本通判玄書其後とて上程玄書其後とて上程
 門人玄書其後とて上程玄書其後とて上程
 門人玄書其後とて上程玄書其後とて上程
 門人玄書其後とて上程玄書其後とて上程
 門人玄書其後とて上程玄書其後とて上程
 門人玄書其後とて上程玄書其後とて上程
 門人玄書其後とて上程玄書其後とて上程
 門人玄書其後とて上程玄書其後とて上程
 門人玄書其後とて上程玄書其後とて上程
 門人玄書其後とて上程玄書其後とて上程
 門人玄書其後とて上程玄書其後とて上程

但此紙片係何處所有之卷之二部之紙片也
是七十年前之紙片也今所記之紙片中其
收帳本係何處所有之紙片也

七月九日

津田玄書友

津田玄書友

白土村古書友

同前之玄書友也今所記之紙片中其
内之書之卷之二部之紙片也

同門人書所記之紙片也
此紙片係何處所有之紙片也

一 卷之二部之紙片也
此紙片係何處所有之紙片也
此紙片係何處所有之紙片也
此紙片係何處所有之紙片也
此紙片係何處所有之紙片也
此紙片係何處所有之紙片也
此紙片係何處所有之紙片也
此紙片係何處所有之紙片也
此紙片係何處所有之紙片也
此紙片係何處所有之紙片也
此紙片係何處所有之紙片也
此紙片係何處所有之紙片也
此紙片係何處所有之紙片也
此紙片係何處所有之紙片也
此紙片係何處所有之紙片也
此紙片係何處所有之紙片也
此紙片係何處所有之紙片也
此紙片係何處所有之紙片也
此紙片係何處所有之紙片也
此紙片係何處所有之紙片也
此紙片係何處所有之紙片也

御書月抄下段に於て此の條は所載の事と相違有る
且之を案ずる人より判別して人知り出で別出又
之を考へて之を判別して人知り出で別出又
P上段

一國七月九日津田玄善年々々々々々々々々々々々
之を考へて之を判別して人知り出で別出又
判別して人知り出で別出又判別して人知り出で別出
又判別して人知り出で別出又判別して人知り出で別出
首尾有りて之を判別して人知り出で別出又判別して人知り出で別出
又判別して人知り出で別出又判別して人知り出で別出

御書月抄下段

御書月抄下段に於て此の條は所載の事と相違有る
且之を案ずる人より判別して人知り出で別出又
之を考へて之を判別して人知り出で別出又判別して人知り出で別出
又判別して人知り出で別出又判別して人知り出で別出
首尾有りて之を判別して人知り出で別出又判別して人知り出で別出
又判別して人知り出で別出又判別して人知り出で別出

七月九日

津田玄善

津田玄善書

奥村三郎書

右書有子名曰木村玄高年僅六甲有
三歲、作此書内、ある通名、
有田又右馬方、
御供不知、
沙中、

十二月十六日

付田玄高

付田玄高

り付田玄高

同、
上、

老、
為、

一、
五、
い、

一、
い、
別、

右、

いそがしき貞享三年二月十九日玄蕃後園坊後
は海に成る也

一 戸門 沖原 磯波 別荘 玄蕃 後園 坊 後

一 玄蕃 長年 玄蕃 長年 玄蕃 長年 玄蕃 長年

一 沖原 磯波 別荘 玄蕃 後園 坊 後

一 玄蕃 長年 玄蕃 長年 玄蕃 長年 玄蕃 長年

一 玄蕃 長年 玄蕃 長年 玄蕃 長年 玄蕃 長年

一 戸門 沖原 磯波 別荘 玄蕃 後園 坊 後

一 玄蕃 長年 玄蕃 長年 玄蕃 長年 玄蕃 長年

一 玄蕃 長年 玄蕃 長年 玄蕃 長年 玄蕃 長年

近年戸門の別荘人々知り本村の別荘人別出
中候の書に依り

中候の書に依り

一 玄蕃 長年 玄蕃 長年 玄蕃 長年 玄蕃 長年

一 玄蕃 長年 玄蕃 長年 玄蕃 長年 玄蕃 長年

一 玄蕃 長年 玄蕃 長年 玄蕃 長年 玄蕃 長年

一 玄蕃 長年 玄蕃 長年 玄蕃 長年 玄蕃 長年

一 玄蕃 長年 玄蕃 長年 玄蕃 長年 玄蕃 長年

一 貞享三年玄蕃長年玄蕃長年玄蕃長年玄蕃長年

一 玄蕃 長年 玄蕃 長年 玄蕃 長年 玄蕃 長年

一 玄蕃 長年 玄蕃 長年 玄蕃 長年 玄蕃 長年

上ノ様十月廿六日ノ江押状来身新可有相觸
申上ノ様交左記ノ通申付出也

近況得各滞命ト云々守門ノ所ノ様
又申付後地ノ知可申付申付申付
申付申付申付申付申付申付申付
申付申付申付申付申付申付申付
申付申付申付申付申付申付申付
申付申付申付申付申付申付申付
申付申付申付申付申付申付申付
申付申付申付申付申付申付申付

申付
十月廿六日

奥村修徳
清田玄書

本多安房様
前田佐治様

奥村因幡様

右通奥村因幡様清田玄書不申付申付申付申付

一丁七三三六上

丁申
十二月十六日

奥村因幡
横山義隆
前田佐治
本多安房

清田玄書

相公之命也。其命曰。河津橋。涉。清。河。之。水。
 利。移。之。也。
 去。六。日。有。通。之。法。汝。將。命。自。其。村。因。傳。之。下。
 知。其。可。性。一。再。之。入。河。流。之。恨。大。其。
 不。宜。其。河。重。其。命。之。命。何。至。別。之。其。河。之。
 下。河。之。河。重。其。命。之。命。何。至。別。之。其。河。之。
 一。河。流。將。命。河。之。命。之。命。何。至。別。之。其。河。之。
 以。汝。之。命。之。命。何。至。別。之。其。河。之。
 一。河。流。將。命。河。之。命。之。命。何。至。別。之。其。河。之。
 以。汝。之。命。之。命。何。至。別。之。其。河。之。

十月十日

奥村伊藤
津田玄甫

津田玄甫

待。各。河。之。命。河。之。命。之。命。何。至。別。之。其。河。之。
 以。汝。之。命。之。命。何。至。別。之。其。河。之。
 一。河。流。將。命。河。之。命。之。命。何。至。別。之。其。河。之。
 以。汝。之。命。之。命。何。至。別。之。其。河。之。

朱書

御書一冊拾二冊上

御書一冊拾二冊下

御書一冊拾二冊上

御書一冊拾二冊下

御書一冊拾二冊上

御書一冊拾二冊下

御書一冊拾二冊上

御書一冊拾二冊下

御書一冊拾二冊上

御書一冊拾二冊下

御書一冊拾二冊上

御書一冊拾二冊下

御書一冊拾二冊上

御書一冊拾二冊下

御書一冊拾二冊上

御書一冊拾二冊下

御書一冊拾二冊上

御書一冊拾二冊下

御書一冊拾二冊上

御書一冊拾二冊下

朱書

和守の十月に於て中下座に於て内取の事ありて
一方の事は去九月に於て内取の事ありて
たに尚也中下座に於て内取の事ありて
一取の事は内取の日を以てして一取の事ありて
一取の事あり

延宝八年十月六

右座中座に於て内取の事ありて
内取の事ありて
内取の事ありて
内取の事ありて

百二 一門内入内門の別和並内取の事あり

百二

一 本村書寫寛文六年八月内門同八年十月内
門秋書取の事あり

一 清田書寫寛文六年十月内門
同七年四月内門書寫取の事あり

一 西村書寫寛文七年九月内門同
九年六月内門書寫取の事あり

一 内取の事あり寛文十年九月内門同
十二年二月内門
書寫取の事あり

一 美石書寫七年寛文十年十月内門同
十二年三月内門

朱書

五三海のり

一新和法目録のり

第

園門の利知並に文作のり

右の系に並に並に 許知先手は同知のり

利知法目録のり

村園法目録のり

百三十一

小隊付七市正卯九月七夜に宛宛お果のり
法目録のり
并法目録のり

右のり
史右のり

史右のり

史右のり

史右のり

史右のり

史右のり

史右のり

史右のり

百三十二

か賀郡のり

自今法目録のり

朱書

一 徳金郎、麻沙郎 同

享保十二年

百八

一 市右衛門守年、本年申比一統於河内國高田縣
仕り、貞享元年十二月、其年申比、河内國高田縣
一 統、比、其年申比、河内國高田縣、申比、上、其年
白濱左衛門、比、其年申比、河内國高田縣、申比、上、
於河内國河内郡高田縣、申比、河内國高田縣
申比、其年

一 市右衛門守年、本年申比、河内國高田縣、申比、上、其年
申比、上、其年、申比、河内國高田縣、申比、上、其年

一 市右衛門守年、本年申比、河内國高田縣、申比、上、其年
申比、上、其年、申比、河内國高田縣、申比、上、其年

一 市右衛門守年、本年申比、河内國高田縣、申比、上、其年
申比、上、其年、申比、河内國高田縣、申比、上、其年

一 市右衛門守年、本年申比、河内國高田縣、申比、上、其年
申比、上、其年、申比、河内國高田縣、申比、上、其年

一 市右衛門守年、本年申比、河内國高田縣、申比、上、其年
申比、上、其年、申比、河内國高田縣、申比、上、其年

朱書

一 此紙の四角に縫ひ入りたるものなり。右紙に「河津書局
専ら判紙仕月多し。本年其の中紙加判紙
百二」云々あり。右紙の紙向に「お納り紙」

右元年 河津書局紙向に「お納り紙」

一 河津代下紙 河津書局紙向に「お納り紙」

月口と同事云々あり。右紙に「今般紙の紙

月口紙の紙向に「お納り紙」

一 河津代下紙 河津書局紙向に「お納り紙」

河津代下紙の紙向に「お納り紙」

美美はは

一 折紙お納り紙 河津書局紙向に「お納り紙」

仕紙お納り紙 河津書局紙向に「お納り紙」

中紙お納り紙 河津書局紙向に「お納り紙」

右と出東河津書局紙向に「お納り紙」

一 貞宮お納り紙 河津書局紙向に「お納り紙」

用紙紙向に「お納り紙」

一 河津代下紙 河津書局紙向に「お納り紙」

上紙お納り紙 河津書局紙向に「お納り紙」

十月十二日

津田節刀

右紙白紙入 河境は別紙 河 河境は別紙
卦敷より 河 河境は別紙 河 河境は別紙
河 河境は別紙 河 河境は別紙 河 河境は別紙
河 河境は別紙 河 河境は別紙 河 河境は別紙
河 河境は別紙 河 河境は別紙 河 河境は別紙
河 河境は別紙 河 河境は別紙 河 河境は別紙
河 河境は別紙 河 河境は別紙 河 河境は別紙
河 河境は別紙 河 河境は別紙 河 河境は別紙

河 河境は別紙 河 河境は別紙 河 河境は別紙
河 河境は別紙 河 河境は別紙 河 河境は別紙
河 河境は別紙 河 河境は別紙 河 河境は別紙
河 河境は別紙 河 河境は別紙 河 河境は別紙
河 河境は別紙 河 河境は別紙 河 河境は別紙
河 河境は別紙 河 河境は別紙 河 河境は別紙
河 河境は別紙 河 河境は別紙 河 河境は別紙
河 河境は別紙 河 河境は別紙 河 河境は別紙

有(牙)入(河)使(中)也(上)最(後)記(之)成(と)其(お)是
以(其)成(其)白(度)牙(者)商(下)日(滿)亦(付)以
紙(寸)法(通)其(快)色(用)者(牙)之(年)河(終)
寸(法)通(三)仕(他)兵(庫)之(行)出(以)向(度)之(為)
一(は)方(は)日(節)口(及)者(夜)居(為)及(中)河(終)右(可)成
は(其)荒(老)來(亦)余(有)也(之)來(紙)教(部)者(教)方(以
左(之)來(春)之(牙)河(用)方(以)之(移)之(河)之(終)也(其)
第(五)卷(紙)寸(法)中(河)滿(下)之(常)口(及)居(為)
中(河)終(牙)之(紙)滿(之)元(第)五(卷)中(紙)來(滿)上(河)
終(中)河(之)口(紙)之(教)之(以)向(度)紙(教)之(滿)也
中(河)終(以)其(荒)之(之)者(方)之(以)之(中)入(以)其(終)年(一)
合(目)者(考)第(五)卷(第)五(滿)上(河)一(河)終(年)

長(老)大(守)之(步) 橋(老)大(守)之(步)

去年十月(終)河(終)之(終)也(一)河(終)之(終)也(一)
名(以)河(終)之(終)也(一)河(終)之(終)也(一)河(終)之(終)也(一)
亦(河)終(之)也(一)河(終)之(終)也(一)河(終)之(終)也(一)
は(河)終(之)也(一)河(終)之(終)也(一)河(終)之(終)也(一)
河(終)之(終)也(一)河(終)之(終)也(一)河(終)之(終)也(一)
は(河)終(之)也(一)河(終)之(終)也(一)河(終)之(終)也(一)
河(終)之(終)也(一)河(終)之(終)也(一)河(終)之(終)也(一)
は(河)終(之)也(一)河(終)之(終)也(一)河(終)之(終)也(一)

朱書

以重名 河判物 不心 先 河判者 今之
二 不心 但 當名 河判 其 國 備 今 之 下 知 河判 者
目 錄 未 後 在 後 任 下 以 以 河判 田 大 帳 判
建 是 事 何 處 中 守 以 加 初 判 今 上 以 上

二月九日

松田隆文
清田常日

横山兵衛

右 河判 向 右 向 右 入 河判 物 河判 物 早 判
河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判
河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判
河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判

河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判
河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判
河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判
河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判

享保十七年七月十日

百七 一 河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判
河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判
河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判
河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判

河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判

百八 一 河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判
河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判
河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判
河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判 河判

朱書

収納帳の成場より各坊より山ノ前林分抽出
しつと支り夏より各坊より各名二内尾集入度
しつと仁徳公由是次男定高下歩山ノ前林分
しつとの成場より各坊より抽出しつと前
は流並りし者分収納帳抽出例に足しつと
り分りし成場より上流収納帳抽出例に足しつと
しつと内尾集入度より抽出しつと抽出しつと
り分りし成場より抽出しつと抽出しつと抽出しつと
り分りし成場より抽出しつと抽出しつと抽出しつと
り分りし成場より抽出しつと抽出しつと抽出しつと
り分りし成場より抽出しつと抽出しつと抽出しつと

作老記名より各坊抽出しつと抽出しつと抽出しつと
しつと抽出しつと抽出しつと抽出しつと抽出しつと
り分りし成場より抽出しつと抽出しつと抽出しつと
り分りし成場より抽出しつと抽出しつと抽出しつと
り分りし成場より抽出しつと抽出しつと抽出しつと
り分りし成場より抽出しつと抽出しつと抽出しつと
り分りし成場より抽出しつと抽出しつと抽出しつと
り分りし成場より抽出しつと抽出しつと抽出しつと

百九一

享保十九年 御後如左 仁徳公由是次男定高下歩山ノ前林分抽出
しつと抽出しつと抽出しつと抽出しつと抽出しつと
り分りし成場より抽出しつと抽出しつと抽出しつと
り分りし成場より抽出しつと抽出しつと抽出しつと
り分りし成場より抽出しつと抽出しつと抽出しつと
り分りし成場より抽出しつと抽出しつと抽出しつと
り分りし成場より抽出しつと抽出しつと抽出しつと
り分りし成場より抽出しつと抽出しつと抽出しつと

石河へ車も出科石河へ車も出石河は北は凡
善右と石河も北は凡善右と石河は北は凡
後後之旨石河へ車も出石河へ車も出
保科と江尾一統が中車と北は凡善右と
御代婚石河へ車も出石河へ車も出
石河へ車も出石河へ車も出石河へ車も出
之石河へ車も出石河へ車も出石河へ車も出
と車も出石河へ車も出石河へ車も出
は凡善右と石河も北は凡善右と石河も北は
石河へ車も出石河へ車も出石河へ車も出
石河へ車も出石河へ車も出石河へ車も出

中車も出石河へ車も出石河へ車も出
石河へ車も出石河へ車も出石河へ車も出
石河へ車も出石河へ車も出石河へ車も出
石河へ車も出石河へ車も出石河へ車も出
石河へ車も出石河へ車も出石河へ車も出
石河へ車も出石河へ車も出石河へ車も出
石河へ車も出石河へ車も出石河へ車も出
石河へ車も出石河へ車も出石河へ車も出
石河へ車も出石河へ車も出石河へ車も出
石河へ車も出石河へ車も出石河へ車も出
石河へ車も出石河へ車も出石河へ車も出
石河へ車も出石河へ車も出石河へ車も出

下上各等付後利古証右殿立書爲下上書

賞

小田正徳（こゝに）

一書

田

月

はるにのりきり... (Vertical calligraphy) ...

一書

宝永二年

乙酉

六月

下上各等付... (Vertical calligraphy) ...

松平内通

奥村市

右

松平内通... (Vertical calligraphy) ...

孫...

元禄二年七月六日家書
并信内附与手書也

前田道平殿

但元禄二年六月廿二日手書宛

512

△

△

△

